

残せるか チュウヒの聖地を 大阪に

翼を浅くV字型に保ちながら、草原の上をゆっくりと飛ぶ美しいタカの姿を見かけたら、それはチュウヒです。

堺第7-3区埋立地ではかつて絶滅が心配されているチュウヒというタカの仲間が生息し、繁殖していました。



もう あかん

チュウヒの繁殖地は全国的にも限られ、堺第7-3区は大阪府内唯一の貴重な繁殖地です。チュウヒが生きていくためには、広大な草地や湿地環境が必要です。

チュウヒ ♀ 2007.6

◆環境省レッドリスト

EN : 絶滅危惧ⅠB類 指定

◆近畿地区鳥類レッドデータブック

ランク1 : 危機的絶滅危惧種

チュウヒは、環境省のレッドデータリストでは絶滅危惧ⅠB類とされ、近年はさらに生息状況が悪化したとされています。

絶滅危惧ⅠB類の鳥は他にクマタカ、イヌワシ、オジロワシが含まれ、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い鳥です。



チュウヒ ♂ 2005.6

チュウヒ (学名) *Circus Spilonotus* (英名) Eastern Marsh Harrier (漢字名) 沢鷺

●チュウヒとはどんな鳥か

生息地：湿地や干拓地、湖沼岸、河川の岸辺などの広いヨシ原で繁殖している。渡りの時期には河原や比較的狭い湿地にも現れる。冬期は全国各地のヨシ原などでみられるが、積雪のある北日本では少ない。

全長：雄48cm～雌58cm 翼開長：雄 113cm～雌 137cm 色彩：個体により羽色が多様で複雑



▲柴材を運ぶチュウヒ♀ 2005.5



▲チュウヒ♂2006.5 雌成鳥は一般に腰が白い

鳴き声：繁殖期にはディスプレイをしながら、雄は「ミュー、ミュー」と鳴く。餌を運んできたときに雌は「クィークィー」、雌は「キキキキ」と鳴く。警戒時には「ケツ・ケツ・ケツ」や「キャ・キャ・キャ」と鳴く。

採餌：両翼を浅いV字型に保つ滑翔と羽ばたきを繰り返しながら、風上に向かい低く飛んで地上の獲物を探す。風の強い日には停翔飛行も行う。チュウヒの顔は平面的であり両眼視できる。また、顔盤は集音しやすくなっており、獲物を探すときには視覚だけでなく、聴覚も利用している。餌はネズミ類がもっとも多く、その他には小鳥、カエル、魚などを捕らえる。

繁殖期：4～7月 つがい関係：一夫一妻

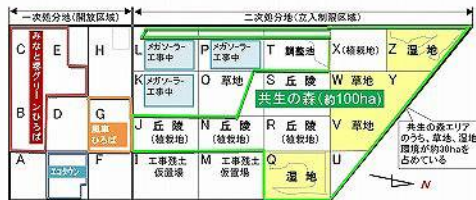
巣・卵：巣づくりは雌雄で行なう。地上に枯れたヨシやスキを粗雑に積み重ねた上にクズなどを皿型に浅く敷き詰めて産座にする。必ず巣は新規につくる。卵数は5～7個であり、産卵後も頻りに巣材を運ぶ。

抱卵：抱卵期間は約35日間。抱卵中の雌は巣を離れることは少ないが、時折は抱卵交代が見られる。雄が餌を運んでくると雌は巣を離れて空中で受け取る。

育雛：育雛期間は約35日間。ヒナは巣を離れてから何か所かを移動し、移動するたびに草を倒して擬似巣をつくる。巣立後もしばらくは親に依存する生活を続ける。

■堺第7-3区とは・・・

大阪府堺市の臨海部にある産業廃棄物処分地で、その広さは約280ヘクタール、甲子園球場の約70倍に相当する。2004年から大阪府、市民、NPO、企業などが参加し、「共生の森」づくり（植樹事業、全体約100ヘクタール）が進められている。また関西電力による太陽光発電所（メガソーラー）事業が2010年から開始され、2011年より稼働予定である。



■ 堺第7-3区における2006～2010年のチュウヒの繁殖状況

- ・2006年 2つがいの営巣を確認。
1つがい繁殖失敗、1つがい1羽のヒナが巣立ち

大阪で初めての繁殖を確認



▲ 巣とヒナ (約20日齢) 2006.6.20



▲ 巣立ちヒナ 2006.7.18

- ・2007年 2つがいが繁殖行動。1つがいの巣(ヒナ3羽)発見。うち2羽が巣立ち



▲ 巣とヒナ (左約20日齢、右約23日齢)
2007.6.25



▲ 巣立ちヒナ 2007.7.9

- ・2008年 メス1羽のみ記録、繁殖行動確認できず
- ・2009年 1つがいの営巣を確認。1羽のヒナが巣立ち
- ・2010年 4月期調査でメス1羽のみ記録、5月～6月、チュウヒ確認できず

※ ヒナと巣の写真については、営巣状況の確認のために、繁殖に影響を与えないように親鳥の動き等に細心の注意をはらいながら撮影したもの。

堺7-3区 大阪で唯一、チュウヒが繁殖する広大な埋立地
草原や湿地を残し、チュウヒとの共生を・・・



まだ いける



■ チュウヒのくらしを支える生物の多様性

産業廃棄物処理のためにつくられた埋立地に、今、野鳥をはじめたくさんの生き物がくらしています。草地や湿地を残し、生物の多様性を創出することが絶滅の危機にある鳥たちを守ることにつながります。

いのちは支えあう

2005年以降5年間で確認された野鳥は120種類を超え、チュウヒ以外にも、ツバメチドリやコアジサシ、セイタカシ干などの絶滅危惧種が繁殖。またコミミズクやノスリ、ハイロチュウヒなど10種類もの猛禽類が越冬する府内有数の野鳥生息地となっている。



生物の多様性の創出



写真：左上からキジ、セッカ、オオバン、チュウヒ、カイツブリ、ツバメチドリ、コアジサシ、セイタカシ干

チュウヒ保護のための日本野鳥の会大阪の取り組みと保護への課題

- チュウヒの繁殖状況調査、堺第7-3区の鳥類調査を行い、保護のための基礎資料を収集。繁殖地周辺の環境が大きく変わりつつある中、チュウヒの生息・繁殖に赤信号が・・・
- 「共生の森」づくり（植樹事業）が2004年からスタート。湿地部とその周辺は、植樹を行わずに野鳥の生息できる環境を残すことになっているが、その面積は約56haしかなく、チュウヒの生息・繁殖には十分な広さではない。
- チュウヒをはじめとする希少な鳥類の保護のために、堺第7-3区をサンクチュアリ（鳥獣保護区等）として位置づけ、多くの生き物が生息できる多様な草地、湿地環境を創出する。



▲ 堺7-3区の先端部にある乙池 いろいろな水鳥が見られる



日本野鳥の会 大阪

Osaka Branch, Wild Bird Society of Japan

〒543-0011 大阪市天王寺区清水谷6-16 NEXT21 1F

TEL06-6766-0055 (火・金AM10~PM6)